

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 鉱工業生産指数(2010年2月)

発表日 2010年3月30日(火)

～単月では低下も、上昇傾向が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部
担当 主任エコノミスト 新家 義貴
TEL : 03-5221-4528

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)				消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷		出荷	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
08	1-3月	0.3	2.4	0.5	3.2	▲ 0.3	1.9	0.1	1.1	▲ 3.2	▲ 0.7	0.8	4.1		
	4-6月	▲ 1.3	0.8	▲ 1.9	1.0	1.0	2.6	2.4	2.3	▲ 3.1	▲ 5.5	▲ 1.3	3.2		
	7-9月	▲ 3.2	▲ 1.4	▲ 3.0	▲ 1.5	1.4	3.1	4.2	5.3	▲ 5.7	▲ 11.6	▲ 1.4	1.1		
	10-12月	▲ 11.3	▲ 14.5	▲ 11.0	▲ 14.9	1.9	4.8	15.0	24.4	▲ 7.3	▲ 18.9	▲ 8.4	▲ 11.0		
09	1-3月	▲ 22.1	▲ 34.6	▲ 21.0	▲ 33.5	▲ 9.0	▲ 5.2	24.0	52.6	▲ 19.2	▲ 32.7	▲ 20.4	▲ 29.0		
	4-6月	8.3	▲ 27.8	6.4	▲ 27.6	▲ 4.5	▲ 10.3	▲ 9.6	34.4	▲ 17.0	▲ 41.6	9.9	▲ 21.3		
	7-9月	7.4	▲ 20.1	8.4	▲ 19.3	▲ 0.6	▲ 12.1	▲ 12.4	12.9	5.3	▲ 34.7	7.4	▲ 14.4		
	10-12月	4.5	▲ 5.4	5.2	▲ 4.1	▲ 1.2	▲ 14.7	▲ 7.0	▲ 8.8	11.1	▲ 21.4	4.7	▲ 1.5		
09	1月	▲ 10.1	▲ 30.9	▲ 10.8	▲ 31.6	▲ 1.5	2.8	13.8	51.4	▲ 12.4	▲ 29.6	▲ 11.9	▲ 29.1		
	2月	▲ 9.4	▲ 38.4	▲ 6.1	▲ 36.7	▲ 4.2	▲ 1.7	5.5	60.8	▲ 8.3	▲ 38.4	▲ 4.3	▲ 30.8		
	3月	1.6	▲ 34.2	1.5	▲ 32.4	▲ 3.6	▲ 5.2	▲ 5.3	44.6	3.9	▲ 30.5	▲ 0.4	▲ 27.3		
	4月	5.9	▲ 30.7	3.0	▲ 30.7	▲ 2.7	▲ 7.2	▲ 4.7	41.1	▲ 15.7	▲ 40.5	5.5	▲ 25.9		
	5月	5.7	▲ 29.5	4.8	▲ 30.0	▲ 0.7	▲ 8.4	0.1	39.6	▲ 2.6	▲ 45.2	8.4	▲ 22.5		
	6月	2.3	▲ 23.5	3.5	▲ 22.6	▲ 1.1	▲ 10.3	▲ 10.0	22.4	1.9	▲ 39.3	1.2	▲ 15.9		
	7月	2.1	▲ 22.7	2.4	▲ 22.0	▲ 0.3	▲ 10.6	▲ 4.0	20.4	▲ 1.8	▲ 39.3	2.2	▲ 17.3		
	8月	1.6	▲ 19.0	0.6	▲ 19.0	0.1	▲ 10.3	▲ 0.5	11.7	6.9	▲ 33.6	1.6	▲ 13.3		
	9月	2.1	▲ 18.4	4.2	▲ 16.8	▲ 0.4	▲ 12.1	▲ 5.0	6.9	6.6	▲ 31.8	1.7	▲ 12.4		
	10月	0.5	▲ 15.1	1.3	▲ 13.0	▲ 1.5	▲ 14.4	0.3	3.1	▲ 1.6	▲ 29.8	1.8	▲ 9.8		
	11月	2.2	▲ 4.2	0.9	▲ 3.1	0.4	▲ 14.4	▲ 3.4	▲ 9.2	6.2	▲ 19.8	1.4	▲ 0.5		
	12月	1.9	5.1	1.0	5.2	▲ 0.1	▲ 14.7	▲ 4.8	▲ 18.4	5.0	▲ 14.3	0.4	6.5		
10	1月	2.7	18.5	2.7	19.6	1.1	▲ 12.5	1.1	▲ 27.5	▲ 3.9	▲ 6.8	▲ 1.2	17.5		
	2月	▲ 0.9	31.3	▲ 0.2	28.7	1.0	▲ 7.7	1.8	▲ 30.0	8.9	11.5	0.2	24.9		
	3月	7.4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	4月	▲ 0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

(出所) 経済産業省「鉱工業生産指数」

(注) 3、4月は、製造工業生産予測調査の数値

○ 単月では低下も、上昇傾向が続く

経済産業省より発表された2月の鉱工業生産は前月比▲0.9%と、事前の市場予想(▲0.5%、レンジ: ▲1.6%～+1.3%)を若干下回った。前月比での低下は09年2月以来だが、これは、中華圏の旧正月のタイミングのずれによって、1月の生産が上振れていた反動が出たものとみられる。また、2月は季節調整が難しい月であることも影響している可能性があるだろう。輸出の増加を背景として生産の持ち直し傾向が続いているという状況に変化はない。なお、3月の予測指数(前月比+1.4%)を前提にすると、1-3月期の鉱工業生産は前期比+4.7%になるが、これは09年10-12月期の同+4.5%に匹敵する高い伸びである。過去の景気回復局面と比べてもかなり高い伸びであり、生産が依然ハイペースで増加していることが確認できる。

○ 業種別の動向

1-3月期の動向を業種別に見ると(3月は予測指数通りと仮定)、一般機械(前期比+11.5%、寄与度+1.2%Pt)、鉄鋼(前期比+7.3%、寄与度+0.4%Pt)、輸送機械(前期比+4.9%、寄与度+0.8%Pt)などの増加が目立っている。一般機械については、アジアにおける設備投資需要の盛り上がりを背景として輸出が増加していることに加え、国内でも設備投資が持ち直しつつあることが影響しているとみられる。一方で、情報通信機械については前期比▲3.9%、寄与度▲0.2%Ptと低下に転じている。そのほか、月次の動きとしては、電子部品・デバイスの生産が2ヶ月連続で低下(1月: 前月比▲1.4%、2月同▲1.9%)していることが気になるが、出荷指数をみると1月(前月比+1.9%)、2月(同+0.3%)ともプラスであり、

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

在庫も低下している。IT部門の動向について特に懸念する必要はないだろう。世界的にIT需要は旺盛であり、先行きもIT部門生産の増加基調は途切れなれないと思われる。

○ 設備投資は持ち直し

設備投資と関連の深い資本財出荷（除く輸送機械）は、前月比+8.9%（1月：同▲3.9%）と高い伸びになった。1-2月平均の水準でみても、10-12月期を5.6%上回っている。輸出向けの出荷分も含まれていることに注意が必要であるが、企業収益の回復傾向などを背景として設備投資が製造業を中心に持ち直しつつあることが示唆される結果である。

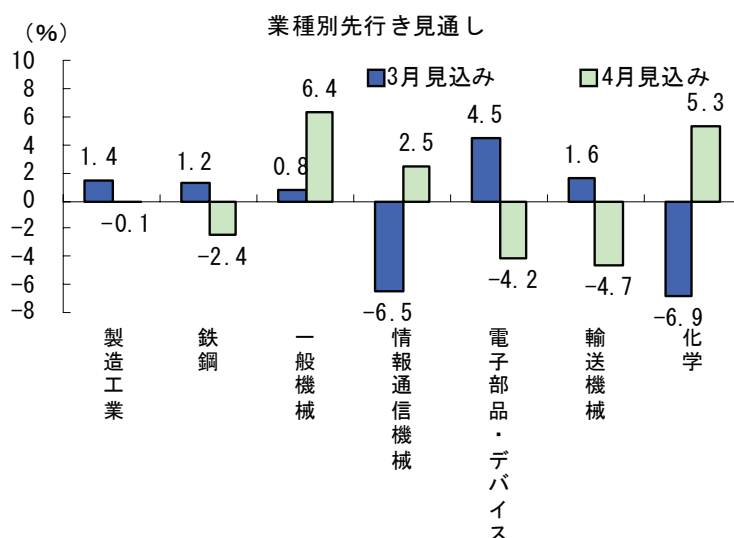
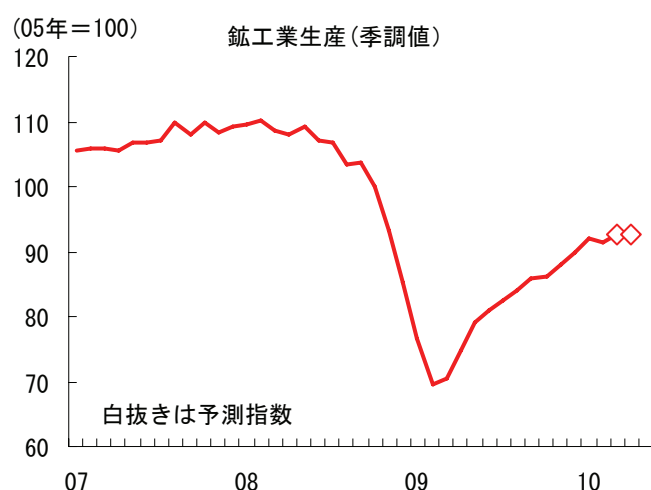
消費財出荷は、前月比+0.2%（1月：同▲1.2%）となり、1-2月平均の水準は10-12月期を▲0.4%下回っている。1-2月平均の内訳をみると、非耐久消費財はプラスである一方で、耐久消費財はマイナスに転じている。最近の消費関連統計は統計ごとにかなりまちまちな結果となっており判断が難しいが、供給側統計から見る限り、エコカー減税など政策効果の限界的な押し上げ効果は徐々に弱まりつつあるようだ。

○ 増勢は先行きやや鈍化も、増加基調は途切れず

予測指数は、3月は前月比+1.4%と上昇見込みとなっているものの、4月が同▲0.1%と低下が予想されている。均してみれば、増加ペースが4月以降鈍化する可能性が示唆されている。これまでの生産を押し上げてきた要因としては、①リーマンショック以降の急激な落ち込みからのリバウンド（在庫復元）、②輸出の大幅な増加の二つが挙げられるが、このうち前者については効果が弱まりつつあるとみられる。

もっとも、②の輸出については、アジア向けを中心として引き続き高い伸びが予想されることから考えて、生産の増加基調が途切れる可能性は小さいだろう。2月の実現率が+0.1%、3月の予測修正率は▲0.1%と、ほぼ企業の見込み通りとなっており、需要の見誤りから在庫が積みあがり、生産抑制圧力が強まるという状況にはなっていないことも好材料である。生産は先行き、1-3月期までのハイペースでの増産傾向からはさすがに鈍化するが、着実に回復を続けると予想する。

そのほか、輸送機械の予測指数をみると、3月が前月比+1.6%、4月が同▲4.7%となっている。4月の落ち込みが、大手自動車メーカーのリコール問題の影響を受けたものかどうかは不明だが、先行きの動向には注意していきたい。



(出所)経済産業省「製造工業生産予測調査」